

日本チェコ友好協会からのお知らせ

2020年9月25日

残暑もようやく収まり、過ごしやすくなってまいりました。日本のコロナは第二波がピークを越したといわれていますがどうなのでしょう。チェコでは9月にはいり感染者が増え始め、マスクの着用が義務付けられる場所が増えています。

友好協会では引き続きオンラインでの対応に取り組んでいます。10月の阿部先生のカレル・チャペックの「R.U.R」(ロボット)の講演会に続き、11月にはパンデミックが題材で話題のカレル・チャペックの戯曲“Bílá nemoc”「白い病気」について、翻訳の栗栖先生のオンライン講演会の開催が決定いたしました。

オンラインのチェコ語講座も好評です。質疑が対面の教室よりも活発化したように感じられます。コミュニケーションをとるという語学の本質とコミュニケーションツールであるオンラインの特質が相乗効果を生んでいるようです。通学時間がゼロというのもメリットです。ご興味のある方、ぜひ一度体験してみてくださいいかがでしょうか？

残席わずか オンライン 日本チェコ交流100周年記念講演会

本年3月に予定して、延期となっていた講演会を Zoom オンラインで開催します。

「カレル・チャペック『ロボット』の過去と現在」

チェコを中心とする中欧文化研究の第一人者、東京大学の阿部賢一先生に「カレル・チャペック『ロボット』の過去と現在」をテーマにお話をさせていただきます。

日時:2020年10月29日(木) 19:30-20:30 (Zoom システムにて、スマートフォンでも参加可能) 会費:無料 (先着100名で締め切ります。)

お申込み: e-mail での登録をお願いします。お申込みいただいた方に当日の URL を送付します。

申し込み e-mail 宛先: czfriend@outlook.jp

申し込みメールには、「10月29日 講演会申し込み」とタイトル明記ください。



【概要】ちょうど百年前の1920年、カレル・チャペックの戯曲『R. U. R.』(邦題『ロボット』)が発表されました。「ロボット」という言葉が初めて使われたこの作品は大きな反響を呼び、世界各地で翻訳、上演されました。この作品は、ロシア革命や労働運動との関連で解釈されることもあれば、あるいは近未来、SF小説としても読まれてきました。本講演では、過去から現在に至るまで、この作品がどのようにして読まれてきたかを振り返りつつ、AI技術の進展が目覚ましい現代において、同書の意義はどのようなものか、考えていきたいと思えます。

「カレル・チャペック「白い病気」オンライン講演会

日本チェコ交流100周年記念講演会 II

これまで多くのチャペックの作品の翻訳を出版してこられた、医師であり著述家翻訳者である栗栖先生に伝染病を題材としたカレル・チャペックの戯曲 “Bílá nemoc”「白い病気」についてお話いただきます。

演題 「カレル・チャペックは 戯曲「白い病気」で何を語りたかったのでしょうか？」

講師:栗栖茜

日時:11月26日(木)19:30-20:30 (Zoom システムにて、スマートフォンでも参加可能)

お申込み:e-mailでの登録をお願いします。お申込みいただいた方に当日の URL を送付します。

申し込み e-mail 宛先: czfriend@outlook.jp

「11月26日講演会申し込み」とメールタイトルに明記ください。(先着100名で締め切ります。)

講師からのメッセージ

“チェコの作家、カレル・チャペック(1890-1938)の「白い病気」は1937年の作品です。ペストは人類がこれまでに経験したパンデミックのなかでも最大の災害を引き起こしました。そのペストに似た「白い病気」のパンデミックの衝撃が社会にどのような変動をもたらすか、その一つの形をチャペック流に強烈な味付けをして読者、観客に問うたのではないのでしょうか？現在、新型コロナウイルスによるパンデミックが進行中ですが、1937年から80年以上もたった現代において、チャペックの問いかけはよりいっそうわれわれに鋭く迫っているのではないのでしょうか。パンデミックで社会全体がきしみ崩壊へと向かう中、それを民主主義では解決できないとしたら、ガレー的な手法をとらざるをえなくなる、それを最も恐れていたのはほかならないチャペックだったのだと思えてなりません。”

講師略歴: 1943年生まれ。東京医科歯科大学医学部卒。

医師、著述家、翻訳家

(チャペック作品の訳書)

「いたずら子犬のダーシェンカ」、「ひとつのポケットから出た話」

「もうひとつのポケットから出た話」、「戯曲集1 ロボット/虫の生活より」

「園芸家の十二ヶ月」、「サンショウウオ戦争」「長い長い郵便屋さんのお話」

ホルプ先生講演会 予告

コロナ禍ではありますが、毎年恒例のホルプ先生より来年1月も来日予定とのご連絡をいただきました。1月16日の講演会開催を目指しています。

チェコ語講座 入門クラス新規開講 オンラインです！

協会発足以来続いているチェコ語講座、教室での開催は見合わせていましたが6月よりオンラインに切り替え、再開しています。9月下旬より入門クラスを開講しました。アルファベットから始まっています。ご多忙な方、遠方の方でも手軽にご参加いただけます。パソコンがあれば簡単に聴講できる、Zoomシステムを使用しています。この機会にどうぞお試しください。講師からのメッセージをお届けします！



“皆さんこんにちは、アネタと申します。チェコ共和国の東部、フラデツ・クラロベ市の出身です。日本には2017年に来ました。以来チェコをお教えしています。読書と写真が好きです。もちろん大切なビールも！同じチェコ人の主人アダムと楽しんでいます。彼も時々レッスンを代行します。よろしくお願いします。”

(お問い合わせ: 090-3241-7256 担当: 村田 zoomが初めての方もどうぞお気軽に！)

費用: 全クラス 5回1万円 (途中参加の場合は1回2000円として残額)

毎週水曜日 開催 (祝日に当たるときは休講です。)

入門クラス: 19時半から21時 中級継続クラス: 18時から19時半

年会費納入のお願い

振り込みのまだお済みでない方、今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

■年会費

個人会員 ¥5,000 家族会員、学生会員 ¥2,500 法人会員 ¥20,000／1口

■会費振込先 郵便振替 もしくは

- ①三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通 3511197 日本チェコ友好協会 会長 高橋恒一
- ②三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通 3524843 日本チェコ友好協会 会長 高橋恒一

チェコ関連情報

チェコセンターの催し

写真展「人が消えた街」(9/11～10/9、チェコセンター)

感染症拡大により、全世界の都市生活が停止を余儀なくされました。これまで想像もしていなかったことが現実起こっています。こうした中、チェコの写真家カレル・ツドリーンがカメラを手に、首都プラハを撮影しました。「この状況もいつかは終わり、記憶の片隅に追いやられてしまうかもしれない。だからこそ今、作品に残したい」という思いを胸に。12名の写真家が写したコロナ禍の都市の姿を、ぜひご覧ください。

写真展「人が消えた街」 入場無料

会期:2020年9月11日(金)～10月9日(金) 平日 10:00～19:00

会場:チェコセンター東京 展示室

東京都渋谷区広尾 2-16-14 チェコ共和国大使館内 03-3400-8129

=====切り取ってFAXして下さい=====

MA VLAST No.112

2020年 月 日

メールアドレスの登録をお願いします。

日本チェコ友好協会ではメールを通じて会員の皆様への迅速な情報提供、きめ細かいコミュニケーションを目指しています。つきましてはメールアドレスお持ちの方は下記にてご連絡をお願い致します。

(上記 阿部先生、栗栖先生講演会にメールで申し込みの方は不要です。)

Fax: 03-6277-4160 メールでのご連絡は czfriend@outlook.jp まで

会員ご氏名

ご住所

ご連絡先電話番号 ()

e-mail アドレス:

協会へのご意見、ご希望をお寄せください。

チェコ共和国上院議長団の台湾訪問の経緯と背景

松村良紀（副会長）

チェコ発のニュースが久しぶりに世界に発信された。

チェコ共和国のビストルチル上院議長が、国会議員、プラハ市長、企業関係者など 89 名の訪問団を率いて 8 月 30 日から 9 月 4 日迄、台湾を訪問しこれが世界で大きなニュースとして取り上げられた。

チェコは中国と正式国交があり、中国は猛反発し、またチェコ国内でも外交方針に反すると大統領や首相が反対していたが、それを押し切って何故上院議長一行が台湾を訪問することになったのか、その背景をチェコの報道をベースに探ってみた。

① チェコの民主化の歴史と中国の関係



チェコは、チェコスロヴァキア時代の 1968 年に『プラハの春』の民主化運動をワルシャワ条約機構軍（ソ連軍）に弾圧され、その後さらに厳しい共産党独裁体制が約 20 年間続いた。ベルリンの壁崩壊の 8 日後の 1987 年 11 月 17 日にプラハの中心街で学生デモ隊が大勢の警察機動隊に殴打される事件が起こった。この事件は駐在していた事務所の真ん前で起こった為、私はその現場に居合わせた数少ないウィットネスとなったのだが、その光景は今でも鮮明に脳裏に焼き付いている。その日が『ビロード革命』と呼ばれる市民革命のはじまりとなった。翌日から文化人・一般市民が立ち上がり民主化を求める大規模な抗議運動に広がり、1 か月後に共産党政権が無血で崩壊する。そして、この非暴力反体制運動の指導的立場にいたヴァーツラフ・ハヴェル氏が大統領に選ばれた。1993 年のスロヴァキア分離後も引き続き 2003 年迄チェコ大統領を務める間、ハヴェル氏は全体主義の中国とは距離を置く政策を執っていた。同大統領はチベット難民の置かれている立場に理解を示し、ダライ・ラマ法王を国賓として迎えた最初の国家元首であり、その後も長い親交が続いた。

一方 2013 年に就任した現在のゼマン大統領は、親中国政策をとっている。2015 年北京での「抗日戦争勝利 70 年」軍事パレードに、EU 加盟国から唯一の国家元首として出席し関係を深め、翌年には習近平国家主席がチェコを公式訪問し、「チェコは中国にとって EU の玄関口となる」と、チェコに日本円で 4400 億円の投資を約束した。しかし、この多額の投資は実現されず、チェコ国民の間には中国に対する不信感が広がっていた。

② クベラ前上院議長による台湾訪問計画

今回の台湾訪問を最初に計画したのは、ヤロスラフ・クベラ前上院議長。ハヴェル氏とも親交があり、中国の圧力を受けている台湾に友好的で、今年 2 月に台湾を訪問する計画をしていた。これに対し、ゼマン大統領とプラハの中国大使は執拗に訪問を止めるようクベラ氏に迫っていた。クベラ氏は台湾訪問の強い意志を貫いていたが、今年 1 月に急逝した。

亡くなる 3 日前に中国大使から夫妻で招待された新年の夕食会の途中で、クベラ氏は一人別室に連れていかれ、張中国大使と中国人通訳 3 人で 20～30 分話した。戻ってきたときには顔面蒼白の別人のようで、ヴェラ夫人に中国大使館が用意した食事は絶対食べないようにとひどく怯えていたという。張大使は、もしクベラ上院議長が台湾訪問を決行すれば、シュコダ自動車やペトロフピアノなど中国に進出しているチェコ企業は「高い代償を払うことになる」し、自分は解任逮捕される、とクベラ氏に迫ったという。クベラ氏は 1 月 20 日に心筋梗塞で急死した。中国側からの執拗な脅迫による心労が原因と言われている。

4 月に遺品の中からチェコ大統領府と中国大使館がクベラ氏に送った 2 通の「脅迫状」が見つかり、その内容は台湾訪問をやめなければ、家族を危険に晒すというものであったとされる。ゼマン大統領はこの書信についての調査要求を拒否している。

故人の遺志を継いだピストルチル上院議長は、今年 5 月チェコ上院で「ピストルチル議長の訪台を支持する決議案」を 50 対 1 で通過させて台湾訪問を実現した。

③ プラハ市長、北京との友好都市協定を破棄

89 名の訪問団の中で首都プラハ市のフジプ市長が注目される。チェコ海賊党（海賊党はヨーロッパ各国にある政党で透明な民主主義を標榜。チェコ下院では 22 名の第 3 党）のフジプ氏は、中国の人権問題は黙認出来ないとの立場から、北京市との友好都市協定にある「一つの中国」に関する項目の削除を求めていた。しかし、中国が要求を無視したため、昨年北京市との協定を破棄し、台北市と友好都市協定を締結した。

④ チェコ台湾訪問団

ピストルチル上院議長は 9 月 1 日、台湾の立法院（議会）で約 45 分間演説し、台湾の民主主義をたたえ「世界中の民主的な議会の役割は、法案の採択のみならず、民主主義の原則を守ることだ」と述べた。そのうえで「民主主義国家は他の国の指図を受けるべきではない、特に非民主的な国家の命令に従う必要はない」と中国を暗に批判した。最後に故ケネディ元米大統領が 1963 年に西ベルリンで行った演説をなぞらえて、「私は台湾人である」とチェコ語と中国語で台湾の人々への支持を表明した。

代表団は 3 日、総統府で蔡英文総統と会談、蔡総統はその後の式典で、クベラ前上院議長を悼み故人への敬意を示す勲章を授与した。



⑤ 今回の訪問団の反響

EU加盟国はEUの外交方針に従うのが原則であり、ゼマン大統領、バビシュ首相、外務大臣がこぞって今回の訪問には反対していた。さらに中国はチェコにとって 4 番目の貿易相手国であり、台湾訪問がチェコに多大な経済的悪影響を及ぼすことが予想される中で、上院議長が台湾訪問を執行するのは、日本人には考えにくいことであろう。その背景にはチェコの特異な歴史がある。

チェコは、20 世紀初頭には民主主義国家としてドイツと肩を並べる工業国であったが、その後の歴史で、ナチスドイツやソ連など周辺諸国から圧力を受け続け小国の悲哀を味わい続けた。現在の台湾の置かれた状況が、かつて独立と自由・民主主義を奪われていた自国の状況と重なって、大国の横暴を許してはならないとの思いが他国よりもはるかに強いのは想像に難くない。

チェコ上院議長は憲法上、大統領に次ぐ地位であり、今回の訪問は公式訪問ではないとは言え、その訪問自体、台湾とチェコのみならずEU諸国と中国の今後の関係に大きな意味を持つであろう。

今回の訪問は、台湾を国際社会で孤立させようとの中国の目論見に風穴を開ける動きであり、その為に中国の反発も激しい。8 月 30 日チェコ訪問団のチャーター機が台湾に近づいたときに中国機が異常接近して来たとの報道もある。王毅国务委員兼外相は翌 9 月 1 日にこの訪問は「一線を越えた」と述べ、中国外務省は「14 億人の人民を敵に回す。必ず重い代償を払わせる」とチェコへの報復の可能性をおおせ、早速今回の訪問団に参加したチェコ企業の中国入国拒否を発表し、さらなる制裁としてチェコで船積み直前のペトロフピアノとの 2500 万円の契約を破棄した。（その後チェコの億万長者コマレック氏がこの 11 台のピアノを買い上げ、チェコの小学校に寄付するというニュースがある。）

中国との経済関係は今後さらに悪化するに違いなく、チェコ経済にとっては試練が続くことになろう。EU加盟国の中にはチェコに続いて台湾訪問を計画している国もあると伝えられており、対中国政策についてのEU内の意見統一がさらに難しさを増すことが予想される。

(2020 年 9 月 25 日)